

| 項                        | 教育目標    | 重点目標<br>(努力目標) | 具体的な取組              | 取組状況・成果・課題  | 自己評価<br>(4点満点) | 学校関係者からいただいた<br>評価・意見等  | 改善策<br>※左欄(学校関係者からいただいた評価・<br>意見等)を踏まえた改善策には、下線   |
|--------------------------|---------|----------------|---------------------|---|----------------|---|---|
| 心豊かにたくましく生きる<br>神戸の子供を育む | やさしく    | やさしく           | あいさつ・返事の育成          | 今年度は感染症対策で大きな声を出す挨拶ができにくかった。こちらから挨拶をしても返事が返ってこない児童も実際に見受けられる。学校では登校時の挨拶、教室での挨拶・返事の指導を継続。また、代表委員会だけでなく、11月から12月にかけて、6年生が「キャプテン活動」の一つに「挨拶運動」を実施。      | 2.71           | 挨拶は毎日しっかりしてくれている。本年度は見守り隊の人数を増やし、積極的に活動を行った。  | 子供たち自身が進んで挨拶をすることで「挨拶の意義」について気付き、挨拶は人間関係を豊かにするものとしてとらえられるよう今後も機会を見ては活動を継続する。各家庭にも、引き続き児童への挨拶等声掛けを依頼。  |
|                          |         |                | 優しい気持ちや言葉遣いで接する子の育成 | 自己肯定感・自己有用感を育成し、自分の命を大切にするとともに、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育む教育を実践。道徳の授業は、学級担任がローテーションを組み、どのクラスの児童ともかかわれるよう工夫している。  | 3.18           | 福島・宮城が再び地震の被害にあっている。いつ何時起こるか分からない震災に対して、防災教育を充実させることは大切である。何よりも「みんなで助け合う」という気持ちを子供たちがもてるよう学校には期待している。 | クラスによっては帰りの会などに友達のよい行動について発表し、全員で賛嘆する時間も設けている。このような日頃から良い行動を認める場面を今後も大切にしていきたい。また、全職員で子供たち一人一人のよさを認め合う場面を積極的に作っていく。                           |
|                          |         |                | 異学年の交流の推進           | 異学年交流や学年での活動が難しい中、学級での係活動を活発にするようにした。一人一人が役割をもち、学級全体に関わるよう、また子供たちの主体的な気持ちを大切にしながら活動を継続。   | 2.9            | 特になし  | 異学年交流に向け、密を避ける制限があるので、学習中のグループで意見を出し合う活動、お互いを理解しあう場面に重点を置く。今後も友達同士のつながりを大切にし、異学年交流が難しい中ではあるが、充実した学校生活を送れるよう取り組んでいく。                           |
|                          | つよく     | つよく            | 学校のきまりの指導徹底         | 生徒指導部会では、持ち物、衣服等のきまりについて共通理解。「今までこうだったから」ではなく、時代に即した視点をもち柔軟に対応できるよう、児童・保護者にも説明がつくよう話し合いの場をもっている。  | 2.75           | 学校の近くにある公園で、小学生が看板を蹴って倒していた。コロナでストレスが溜まっているのかもしれないが、指導してほしい。  | 共通理解した事柄は、全教職員が同じ指導ができるよう徹底を図る。きまりを増やすのではなく、なぜそのようなきまりが必要なのか子供たちが考える場をもち、安全に学校生活を送れる児童を育てていく。   |
|                          |         |                | 楽しんで、すすんで運動できる機会の設定 | 本年度は運動会を中止、体育学習もコロナ感染拡大防止の対策をとっての授業実施。制限された活動の中で、その運動の「楽しさ」を追求し続けることができるよう、学年で工夫した。また、1年生では民間事業者とともに行う授業「やってみよう教室」を2回実施し、低学年期における多様な運動が経験できる機会を設けた。 | 3.22           | 子供たちのコロナ疲れ。学校でしゃべれない・動けない。ストレスが生じてきている。   | 行間休みならびに昼休みは多くの児童が外遊びをしている。3学期になってからは休み時間に体育の授業で学習した縄跳び(短縄跳び)に意欲的に取り組んでいる姿も見られる。ただ、運動場が凍結するため、気温が上がらずとぬかるみ使用できなくなる。にがりの散布等は行っているが、なかなか改善されない。 |
|                          |         |                | 体力の向上               | 例年、毎週水曜日には「すいすいスポーツ」を実施してきたが、授業時数確保のため実施できず。そのため、体育学習だけでなく行間休みには、クラスで「みんな遊び」の時間を取り、運動場で「鬼ごっこ」や「ドッジボール」をするなど、しっかり体を動かす事ができるようにした。                    | 3              | 特になし  | 今後も体力の向上と感染拡大防止を両立させながら体力の向上を図っていく。毎週水曜日に実施してきた「すいすいスポーツ」については、あり方を検討していく。  |
|                          | すすんでまなぶ | すすんでまなぶ        | 話を最後まで聞く指導          | 「広陵っ子スタンダード」を学習スタイルの基本としている。話の聞き方・話し方あいうえおでは「相手の顔を見て」「一生懸命」「傾きながら」「笑顔で」「終わりまで」を合言葉に日々の学習で意識できるよう指導している。   | 3.1            | 特になし  | 話を聞いてはいるが、その要点を的確にとらえることはなかなか難しい。「相手の顔を見て」「傾く」だけではなく、内容をしっかりと受け止められているかどうかを見極める必要がある。今後も、安心して話せる雰囲気大切にしていきたい。                                 |
|                          |         |                | 考えをもち、伝えようとする子の育成   | 自分の考えを整理するためにはまず文章に書く・まとめる活動が大切だと考える。また、その記述についても結論だけでなくその理由を書くようにするなど、ある程度パターン化し、自信をもって発表できる仕組みを大切にしている。   | 3              | 繰り返しが必要な学習(練習すればできる)に差を感じる。定着している児童とそうでない児童があり、学校はなかなか難しいと思う。基礎学力の定着は大切。                              | 形式化・パターン化することで一定の成果はあるが、個人差が大きく、支援が必要な児童へのかかわりが重要になってくる。また、現段階では活動に時間がかかりすぎるなどの問題点もあるが、継続することで力をつけていくことができると考える。                              |

|                    |   |                     |  |       |  |  |
|--------------------|---|---------------------|--|-------|--|--|
|                    |   | 課題を知り、すすんで学習できる子の育成 | 本校では、平成30年度より、各教室で教師用パソコンを使ってスクリーンに画像を投影しながら学習を進めている。デジタル教科書を使ったり、カメラなどを使い視覚的にわかりやすい教材を用意したりすることで、子供たちの興味を引き出せるよう工夫している。   | 2.76  | ・学校がICT化を進めることで、学習スタイルが変わっていく。PCを使っての宿題などになれば、児童館でも使用できる設定になっているのか。  | ICT機器の活用だけでなく、基礎学力の定着に向け「がんばりカード」などで継続的に学習に取り組んでいけるよう支援していく。学年の発達段階に応じて、週末は自主学習ノートを活用し、児童自身が興味関心のあることについて調べてまとめることを通して、主体的に学習に向かう素地を養えるように工夫する。          |
| 安全・地域・安心で楽しい学校を支える | 『すすんでまなぶ』児童の育成を目指して(職員研修)               |                     | 学習指導要領が改訂に伴い、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を3つの柱とする「資質・能力」の育成を目指すことになり、学習評価も3観点に整理された。本校では神戸市教育委員会から指導主事を招き「学習評価の在り方」についての研修を実施。                                 | 2.935 | デジタルとアナログの利点・欠点をしっかりと子供へ伝えていってほしい。自分はパソコンの開発に携わってきたが、それぞれに良さがある。学習でICT機器を活用する際も、そのあたりをしっかりと見極めて活用していくことが大切だと思う。  | 評価の在り方から授業改善につなげてき、「すすんでまなぶ児童の育成」を目指す。さらにGIGAスクール構想の実現に向けて、一人一台の端末と高速大容量の通信ネットワークの整備が進んでいるなか、職員研修を実施し、より有効なICT機器の活用につなげ、学ぶ質や子供の意欲を高めていく。                 |
|                    | いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)  |                     | 神戸市いじめ指導三原則(するを許さずされるを責めず 第三者なし)を基に、「いじめを見逃さない学級・学校づくり」や「子供たちが生き生きとし、居場所のある学級・学校づくり」を心がけている。また、学期に一度「いじめアンケート」を実施。気になる児童については個別に話を聞き、場合によっては児童への指導・保護者への連絡を行っている。      | 2.83  | コロナの影響で登校しづらい児童の増加を感じる。しかし、学校もリズムを取り戻し、子供たちも登校できるようになってきている。   | 何よりも未然防止に力をいれ、日頃から教職員間で情報交換し、担任だけでなく、学校全体で、児童・クラス・学年に関わっていただけるよう教員・支援員の配置についても日々柔軟に対応する。さらに、全体での話し合いの場も継続していく。   |
|                    | 保護者や地域との連携を充実させる取り組み                    |                     | 本年度はコロナの影響で地域行事のほとんどが中止になった。見守り隊を中心とする登下校の安全指導は例年通り実施。PTA活動も縮小を余儀なくされたが、今回を機に活動内容を見直し、より参加しやすく負担の少ないPTA活動へ向けての改革を模索中。  | 3.22  | 老人会・子供会の活動がほとんど実施できなかった。その中でも、公園管理会で実施している清掃活動には40名ほどの児童が参加してくれた。コロナの心配はあるが、外での活動ということで実施した。活気があってよかったと思う。ただ活動が自粛される中、「子供会は必要なのか」と疑問を投げかけてくる地域住民も出てきた。 | 実施できなかった地域行事等については、以前の取り組みをしっかりと引き継いでいく。また、地域行事の在り方についても、その意味や子供たちへのメリットについても検証していく。PTA活動については、PTA役員の声をしっかりと受け止め、学校としてのかかわり方も検討していく。                     |
|                    | 業務改善に向けた取組(勤務の効率化を目指して)(新型コロナウイルス感染症関連) |                     | 業務改善委員会を年間3回実施。日頃から気になる点を出し合い、改善できる点はすぐに周知・実施してきた。ただ、新しく着任した教職員にとっては以前の学校の慣例が定着しており、本校の業務改善の取組が定着するには時間を要した。またコロナの影響で本来できることができなかったり、今までになかった業務が加わり、教員間でも担当によって軽重があった。 | 3.11  | コロナの影響で先生方の消毒の手間など、業務が増えているのではないかと。  | ペーパーレスや、前々日までにKIIF内に提案資料を入力するなど、会議についても効率化を進めてきた。また、およその提案・検討時間も事前に記入し、時間を意識するようにした。会議はほぼ90分以内に終了するが、さらなる改善を目指したい。さらに、教職員が効率よく働けるよう、職場の整理整頓・環境整備を徹底していく。 |
|                    | 業務改善に向けた取組(勤務時間削減に向けて)                  |                     | 火曜日はリフレッシュデーとし18時に施錠を呼び掛けた。また、その他の曜日は以前に比べ30分短縮し、基本19時とした。ただし延長を申請することは可能。また、電話での対応は、7時45分から18時までとし、それ以外は留守番電話を設定することが定着した。  | 3.36  | 地域行事は子供を育てるのにはなくてはならないもの。大人になってもわが町「広陵」という意識を学校には育てていってほしい。そのためにも学校が中心になって地域を育てることが大切。   | 運動会の半日開催など今後も行事の在り方等検討を重ねる。また、職員の意識改革を推進し、計画を立てタイムマネジメントを各々が意識していく。その中でも人材育成に力点を置き、教育力の向上に努める。   |
|                    | 情報発信の充実を目指した取組(新型コロナウイルス感染症関連)          |                     | 令和2年3月3日から神戸市立の学校園が臨時休業となり、令和2年度当初は学校ホームページや一斉メールサービス「ミマモルメ」で学校からの連絡を保護者・地域へ発信。ただ、状況判断が難しく、今後の予定等、なかなかお知らせすることができなかった。学校ホームページは掲載学年に軽重があった。                            | 2.79  | 自分の子供が、学校を卒業してしまうと、様子がほとんど分からなくなってしまう。小倉台や広陵町は毎月広報紙を出している。そこに「小学校の様子」などの欄があると、学校でどんなことをやっているのかが分かり、ちょっとしたときに小学生とも会話が弾むようになるのではないかと。                    | 1月14日より緊急事態宣言が発出。急を要する場合は、ホームページやミマモルメで連絡を行う。学校ホームページでの活動紹介は、学年によって掲載回数に差があった。今後、どの学年も同程度活動の様子を伝えられるよう改善を図っていく。次年度は「すぐる」(保護者と学校間の新たな連絡ツール)の有効活用を図る。      |